

## 理学療法士、作業療法士の仕事内容について

もどる <https://hidamarien.sakura.ne.jp/>

理学療法士、作業療法士の仕事内容について、どのように違いがあるのかを調べてみますと、日本保健医療大学のホームページに分かりやすく記載がありましたのでご紹介いたします。アドレスは

<https://www.jhsu.ac.jp/befriend/column/625/>

となっています。

### 理学療法士の仕事とは・・・日本保健医療大学より

理学療法士「Physical Therapist(PT)」は、「立つ」「起き上がる」「寝る」「座る」「歩く」など、生活する上で必要な基本的動作のためのリハビリを提供し、運動機能の回復をサポートするスペシャリストです。

患者さんの治療期間の中で、

- 病気になり始める「急性期」
- 急性期後に病状が安定してから機能回復を図る「回復期」
- 退院後など通常の在宅生活に戻っている「維持期(生活期)」

という風に、理学療法士はそれぞれの段階を通して患者さんの身体機能の回復に努め、治療を繋いでいきます。

理学療法士が提供するリハビリは、理学療法に基づいた専門的治療であり、筋肉や関節などの身体を大きく使う運動療法や、超音波機器や温熱治療器・医療用加圧器などを用いる物理療法など、その種類は実に様々です。

### 作業療法士の仕事とは・・・日本保健医療大学より

作業療法士「Occupational Therapist(OT)」の、日常生活をスムーズにするための運動機能の回復をサポートするという仕事内容は、理学療法士と同様です。

しかし作業療法士の患者さんは、理学療法士の患者さんよりもう一步進んだリハビリが求められます。

作業療法士は「食事」「歯磨き」「入浴」「料理」「仕事・趣味」など、患者さんがその人らしく生活するために必要な、応用的動作の回復を図ったりリハビリを、作業療法に基づいて提供します。

そして理学療法士と明確に違うところは、理学療法士が「身体に障がいを持つ人、または障がいの発生が予測される人」が対象であるのに対し、作業療法士は「身体あるいは精神に障がいを持つ人、または障がいの発生が予測される人」がサポート対象になる点です。

**作業療法士が治療に関わるタイミングは以下の通り、サポートする期間が理学療法士のそれより少し広くなります。**

○ 機能低下が見られる前に、障がいを予測してアプローチする「予防期」

○ 理学療法士と同様の「急性期」「回復期」「維持期」

○ 心身の痛みを取り除き、その人らしさを支える「終末期」

「治療」としての役割が多い、急性期～維持期ですが、その他に、まだ症状が見られない時期に対しての指導や、生活に戻ったあとの患者さんの「希望」に叶った生き方のサポートなど、作業療法士には「作業」を通して治療以外を幅広く支援する役割があります。

以上、日本保健医療大学より